

エゾイトイ

会長 勝山 輝男

エゾイトイ *Juncus potaninii* Buchenau は高山の岩場に生えるイグサ科の多年草で、国内では北海道と本州(ハケ岳と南アルプス)、国外では朝鮮と中国に分布します。近縁のイトイ *Juncus maximowiczii* Buchenau に比べてはるかに珍しい植物で、実際に高山で生植物を見たことがある人は少ないのではないかと思います。ネットで検索してもエゾイトイの正しい生態写真は見つかりません(2020年7月4日現在)。環境省のレッドリストでは絶滅危惧2A類とされています。

植物研究雑誌の最新号(95巻3号)に北海道十勝連峰の富良野岳でエゾイトイが約100年ぶりに確認されたことが報告されました(中川 佐藤, 2020)。エゾイトイの生態写真(全形、頭花、種子)が掲載され、採集された標本に基づく形態の特徴が書かれています。

エゾイトイは一般の図鑑類ではほとんど図示されていませんが、山溪ハンディ図鑑『高山に咲く花』(清水・木原, 2002)には南アルプスの北岳で撮影された良い写真が掲載されています。全形だけでなく、花のアップ写真もあり花被片がイトイより明らかに幅が広く、花糸が花被片と同長で、雄しべが花被から長く突き出していないことなど、両者の違いがよくわかります。また、平凡社フィールド版日本の高山植物(山崎 敬編, 1985)には故高橋前会長がハケ岳で撮影されたエゾイトイの写真が掲載されています。私も2001年8月5日に南アルプス北岳山頂近くの岩場でエゾイトイを見ていますが、茎はほとんど直立していて、亜高山帯の湿った岩場にやや下垂気味に生えるイトイとは、だいぶ印象が異なりました。

改訂新版『日本の野生植物』(宮本, 2015)にはエゾイトイの写真はなく、検索表と短い形態解説は旧版(佐竹, 1982)とほとんど変わらない内容で、『日本産のものはイトイの小型のものと考えられ、今後の研究が必要である』旨が追記されています。しかし、エゾイトイとイトイには前述した相違点のほか、イトイの種子には種子本体より長い翼状の付属体がありますが、エゾイトイの種子(図)には小さ

な付属体しかありません。イトイの種子の形態は保育社の原色日本植物図鑑草本編(北村ほか, 1972)に図があります。

今回、北海道でエゾイトイが再発見されましたが、本州ではハケ岳と南アルプス(北岳、仙丈岳、塩見岳)に現存します。一般の図鑑類にはエゾイトイの詳細な形態の記述がないので、この機会に県博(KPM)の標本(ハケ岳および南アルプス産)に基づく記載文を記しておきます。

エゾイトイ *Juncus potaninii* Buchenau

繊細な多年草。根茎は短く1~数本の茎を叢生する。茎は直立し、高さ5~15cm。根生葉は糸状で茎と同高。茎葉はふつう2個つけ、上方のものは刺状で短く、下方のものは茎より短く、ともに基部には鞘部がある。花期は7~8月。花は茎頂に1~2個つけ、小苞は花被片の1/2長。花被片は6個、披針形で長さ3~5mm、幅0.7~1mm、白緑色。雄しべは6本、花糸は花被片と同長が少し短く、葯は長さ約0.8mm。さく果は花被片と同長が少し長い。種子は狭楕円形で、上下に白色の小さな付属体があり、付属体も含めて長さ約1mm。

標本 長野県 諏訪郡原村 八ヶ岳阿弥陀岳 1960.8.28 古瀬 義 KPM-NA0055414; 上伊那郡長谷村 南アルプス仙丈岳地蔵岳山頂 1979.9.2 古瀬 義 KPM-NA0192314; 同塩見岳 1953.7.30 採集者不明 KPM-NA0045228; 山梨県 中巨摩郡芦安村 南アルプス北岳山頂付近 1956.8.18 古瀬 義 KPM-NA0057276。

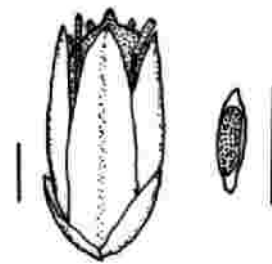


図. エゾイトイの花被に包まれたさく果(左)と種子(右)。スケールは1mm、KPM-NA0192314より描画。

文献

中川博之 佐藤 謙, 2020. 北海道産エゾイトイ(イグサ科)を約100年ぶりに確認する。植物研究雑誌, 95: 171-176